



竜中だより

校訓 自律 協力 創造 勤勉

NO. 3

令和 5 年 7 月 4 日発行



学校ホームページ



<http://ryuyo-j.city-wata.ed.jp/>

磐周大会等各種大会結果

磐周大会もほぼ終了し、8日(土)のサッカー決勝と22日(土)の陸上競技を残すのみとなりました。大会期間中、生徒たちは自分を試すために力の限り頑張りました。応援に駆けつけてくださった保護者のみなさま、ありがとうございました。

県大会出場権を獲得したのは男子卓球(個人戦)1名、女子卓球(個人戦)1名、サッカー、女子柔道(個人戦)1名です。サッカーは磐周大会優勝をかけて、7月8日(土)にジュビロスタジアムで城山中と対戦、水泳も7月8・9日に県大会出場をかけての西部大会が残されています。引き続き、応援をお願いいたします。

【 野球部 】

トーナメント1回戦

竜洋中 1-4 福田中
~敗退~



【 男子バスケ部 】

予選Bリーグ

竜洋中 49-53 城山中
竜洋中 47-35 旭丘中
竜洋中 40-90 福田中
~敗退~

【 女子バスケ部 】

予選Cリーグ

竜洋中 41-46 福田中
竜洋中 58-16 神明中
竜洋中 37-66 袋井中
~敗退~



【 男子ソフトテニス部 】

団体戦 予選Bリーグ

竜洋中 1-2 浅羽中
竜洋中 3-0 磐一中
決勝トーナメント
竜洋中 1-2 豊田中
~5位~

個人戦

4ペアが3回戦進出



【 サッカー部 】

1次トーナメント

竜洋中 4-0 城山中
決勝トーナメント
竜洋中 6-0 浅羽中
竜洋中 4-0 袋井中

~7/8決勝~

県大会出場権獲得



【 男子卓球部 】

団体戦 予選Cリーグ

竜洋中 3-0 城山中
竜洋中 3-1 浅羽中
決勝トーナメント
竜洋中 3-0 磐一中
竜洋中 0-3 豊岡中
3位決定戦
竜洋中 2-3 袋南中
~4位~

個人戦

3位:1名

県大会出場権獲得



【 女子ソフトテニス部 】

団体戦 予選Bリーグ

竜洋中 1-2 福田中
竜洋中 0-3 豊南中
竜洋中 3-0 城山中
~敗退~

個人戦

2ペアが2回戦進出



【 水泳部 】

8位入賞

男子8種目、女子12種目

西部大会出場権獲得



【 女子卓球部 】

団体戦 予選Cリーグ

竜洋中 3-1 袋井中
竜洋中 0-3 城山中
決勝トーナメント
竜洋中 0-3 磐一中
~5位~

個人戦

6位:1名

県大会出場権獲得



【 女子柔道 】

個人戦優勝

県大会出場権獲得

【 女子バレー部 】

1次リーグFゾーン

竜洋中 2-1 城山中
竜洋中 1-2 袋南中
決勝トーナメントAゾーン
竜洋中 2-1 周南中
竜洋中 0-2 福田中
~5位~



校長の話（6月26日 会礼）

遠州灘を通る船を守るために「灯台」をつくった荒井信敬さん

皆さんが学府の「大交流会」を行う竜洋海洋公園からは「灯台」が見えます。あの灯台は「掛塚灯台」という名前です。1897（明治30）年に建てられました。下から中央の帯までが鉄筋コンクリートでできていて、それを基礎として、その上に鉄骨の灯塔が載っています。これは珍しいつくり方なのだそうです。つくられたときは現在よりも東に位置していて、2002（平成14）年に今の場所に移築されています。全国には3000以上の灯台があるそうですが、明治時代の灯台で現在も残っているのは60ほどしかないそうで、大変貴重なものです。

今見ることができる灯台は実は2代目の灯台です。今日は明治時代に初めて駒場の海岸に灯台を造った荒井信敬（あらい しんけい）さんという人のお話をします。

荒井信敬さんは、江戸時代末期の1825年に江戸で生まれました。江戸幕府に仕える武士であったそうです。明治の時代になると今の袋井市で開墾に取り組んだそうです。そして1880（明治13）年に駒場に移り住んだそうです。駒場に移り住んだ信敬さんは、海に遭難した船の残骸が多く見られることに心を痛めました。当時の天竜川の河口には掛塚港があり、東京や大阪に向かう船で大変にぎわっていたそうです。しかし、天竜川の沖合に浅瀬があり、そこで動けなくなってしまう船がたくさんありました。江戸幕府に仕えていた時に乗っていた船が難破して苦しい経験をした信敬さんは、遭難した船の残骸を目にして心を痛め、船の安全のために灯台をつくることを決心したそうです。はじめは国や県に頼んだのですが、灯台をつくってもらうことができず、信敬さんは自分のお金で木造の灯台をつくることにしました。

1897（明治30）年に現在の掛塚灯台が完成したときの新築記念式典の写真が残っています。この写真をよく見ると、新しい灯台の左に信敬さんがつくった灯台が写っています。

信敬さんがつくった灯台は、高さが約7メートルの木造で、油を燃やして明かりをともしていたそうです。1880（明治13）年に完成してから1897（明治30）年に現在の掛塚灯台が建設されるまでの約20年間、遠州灘を航行する船の安全を守ってきました。1880（明治13）年から、1885（明治18）年までの間は、信敬さん個人の力で運営されていました。毎日ランプをみがいたり、油を取り替えたりしたそうです。灯台をつくる費用だけでなく、灯台を管理するための費用も信敬さんが払っていたそうです。

お酒が大好きだった信敬さんは、灯台の運営費用を捻出するために、お酒代を節約し、底が丸い「改心棒（かいしんぼう）」と名づけた杯を使用して、いつも1杯しか飲まなかったそうです。そのため信敬さんがつくった灯台は別名「改心灯台（かいしんとうだい）」と呼ばれたそうです。

自分自身が海で遭難した経験から、海の事故を無くしたいという思いをもち、海の安全を守るために私財を投じて灯台をつくって管理した荒井信敬さん。故郷の偉大な先人の志とその業績には心打たれるものがあります。

現在、竜洋海洋公園の近くには「掛塚灯台」について解説した案内板と荒井信敬さんの石碑が建てられています。また、中学校のグラウンドの南にある「竜洋郷土資料館」の2階に荒井信敬さんに関する展示があります。近くを訪れた時には立ち寄ってみてはいかがでしょうか。

